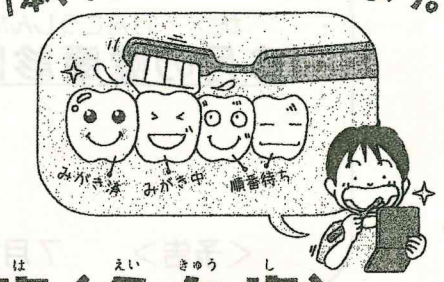
歯科衛生士さんによる、
歯科指導を行います。
6月12日（月）　1・3・5年生
＊染め出しがあります。



つぎつぎ 生える 大人の歯（永久歯）

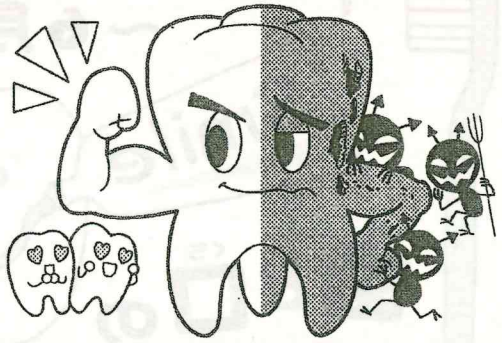
指導　丸森歯科医院 院長　丸森 英史 先生

小学生の間に、子どもの歯（乳歯）から大人の歯（永久歯）へ生え替わっていきます。
大人の歯は生え替わることがないため、一生使う大事な歯です。生えたときから、きちんとみがき、むし歯にならないようにしましょう。

最初に生える大人の歯「第１大臼歯」

大人の歯で最初の方に生える奥歯が第１大臼歯です。第１大臼歯は、６歳くらいに生えることが多いので「６歳臼歯」と呼ばれます。歯の中で一番大きく、歯の根っこも一番大きくて太いため、とても丈夫です。また、歯の中で一番力持ちで、食べ物をかんで、すりつぶすときに一番使う歯でもあります。

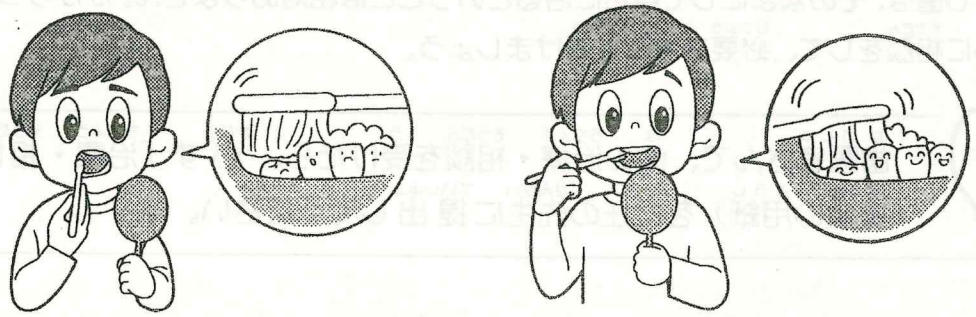
しかし、口の奥にある歯であるために、みがき残しやすく、とてもむし歯になりやすい歯でもあるので、生えてきたときから注意してみがくようにしましょう。



生えている途中の奥歯のみがき方

第１大臼歯（６歳臼歯）などの奥歯は、生えたばかりのときは、周囲の歯よりも高さが低く、歯ブラシの毛先がうまく当たりません。

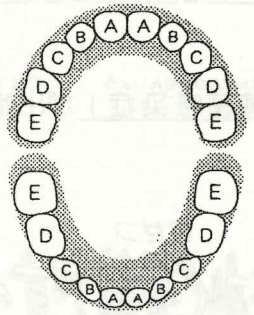
生えている途中の奥歯をみがくときは、口を広げて、歯ブラシを横から入れると、毛先を当てることができます。



子どもの歯が大人の歯に完全に生え替わると…

子どもの歯は、生後６～12か月ごろに生え始めて、上下の歯を合わせて20本生えます。そして、第１大臼歯（６歳臼歯）などの新しい歯が生えたり、前歯から奥歯に向かって、子どもの歯が大人の歯へ生え替わったりして、上下の歯を合わせて、28～32本の大人の歯になります。

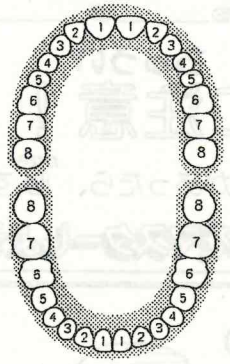
子どもの歯（乳歯）



A・B…乳前歯（乳切歯）
C…乳犬歯
D…第１乳臼歯
E…第２乳臼歯

大人の歯（永久歯）

※32本の場合



1・2…前歯（切歯）
3…犬歯
4…第１小臼歯
5…第２小臼歯
6…第１大臼歯
7…第２大臼歯
（8…第３大臼歯）

生え替わりの時期でも、よくかんで食べよう

子どもの歯が抜け始めてくると、食事のときに食べ物をかみづらくなります。しかし、小学生のときは歯の生え替わりの時期であるとともに、あごが成長する時期でもあります。生え替わりの途中でかみづらくても、時間をかけてよくかんで食べましょう。

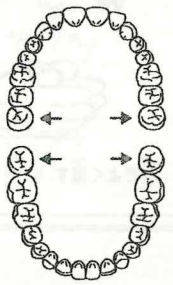
子どもの歯が抜けたら、となりの歯にも注意しよう

歯が抜けることによって、となりの歯の隠れて見えなかった部分に、むし歯が見つかることがあります。抜けた部分から大人の歯が生えて、高さがそろってしまうと、また見えなくなってしまうため、むし歯が見つかったときは、できるだけ早く歯医者さんでみてもらいましょう。

「親知らず」って何？

子どものときに生える大人の歯は、前歯、犬歯、小臼歯、第１、第２大臼歯ですが、第２大臼歯の奥に歯が生えてくることがあります。これは第３大臼歯と呼ばれ、20歳前後に生えて親が知らないこともあるので「親知らず」とも呼ばれます。

生える形や大きさもさまざまで、第３大臼歯が無い人も多くいます。ただ第３大臼歯がまっすぐに生えず、ほかの歯に影響を与えることもあるので、第３大臼歯が出たときは、一度歯医者さんでみてもらいましょう。



©少年写真新聞社